

O6-031

障害や病気のある家族をケアしているケアラー対象のオンラインピアサロンの効果と課題(その1)

渡邊 照美¹⁾、滝島 真優²⁾、森田久美子³⁾、
沖 侑香里⁴⁾、窪田 満⁵⁾、辻 京子⁶⁾、
涌水 理恵⁷⁾

¹⁾佛教大学 教育学部、²⁾成蹊大学、³⁾立正大学、

⁴⁾静岡きょうだい会、

⁵⁾国立成育医療研究センター 総合診療部、⁶⁾四国大学、

⁷⁾筑波大学

【目的】

2023年5月より、障害や病気のある家族をケアしているケアラーを対象に、リモートでのピアサロンを開始した。COVID-19の影響で、対面でのピアサロンからオンラインでのピアサロンへ開催形態を変更したグループはいくつか見受けられたが（渡邊・滝島・森田・涌水、2024）、日本国内において、開始当初からすべてのピアサロンをオンラインのみで行っているグループは見当たらなかった。そのため、本報告では、オンラインピアサロンの実施状況や参加者の感想等から、その効果と課題を検討する。

【方法】

2023年5月から2025年1月までオンラインピアサロンを実施し、その実施回数や参加者数を分析した。また参加者を対象に質問紙調査とグループフォーカスインタビューを実施した。なお研究倫理については、筑波大学医の倫理委員会の承認を受け、対象者から同意を得て実施し、データは個人情報がわからないよう匿名化し分析を行った。

【結果】

2023年5月から2025年1月までに、16回のピアサロンを計画し11回実施。申込者数37名、参加者数32名であった。ピアサロン参加後のアンケートでは29名から回答を得、その結果、満足度については「満足」18名(62.1%)、「やや満足」8名(27.6%)、「どちらともいえない」3名(10.3%)、時間設定については「ちょうどよい」24名(82.8%)、「長すぎた」4名(13.8%)、「短すぎた」1名(3.4%)であった。ピアサロン後の自分自身の変化については「変化あり」18名(62.1%)、「変化なし」11名(37.9%)、身近な他者への変化については「変化あり」8名(27.6%)、「変化なし」21名(72.4%)であった。オンラインでのピアサロンの感想については、移動しなくていいので「参加しやすい」や「いろいろな地域の人と交流できる」、「しっかり話をきいてもらえる」、「しっかり話を聞ける」といったメリットが抽出された。

【考察】

参加者の満足度について「満足」「やや満足」を合わせると回答者の89.7%が満足している点、自分自身の変化について62.1%の回答者が変化を感じていた点、オンラインでのピアサロンの感想において、上記に示したメリットがあげられていた点から、ケアラーにとってリモートでのピアサロンが有効であることが示唆された。一方で、祖父母や父親といったケアラーを対象としたクラスでは参加者が集まらず開催できなかつた点、1回のみの参加では身近な他者への変化までは認められない点が課題としてあげられた。

O6-032

家族を対象としたリモートケアシステムによるオンライン個別相談の実践と課題

辻 京子¹⁾、市川 瞳²⁾、海野 潔美³⁾、
涌水 理恵⁴⁾

¹⁾四国大学 看護学部 看護学科、

²⁾茨城県立医療大学 保健医療学部 看護学科、

³⁾茨城キリスト教大学 看護学部 看護学科、

⁴⁾筑波大学 医学医療系 発達支援看護学

【目的】

オンライン個別相談は、障害のある子どもの養育者が、LINEやZOOM、メールを通じて、子どもや家族の悩み、医療問題、教育関連、社会福祉などに関する問題を専門家（医療、教育、社会福祉の専門職や経験者）に相談できるシステムである。本報告では、オンライン個別相談の実践および利用状況を纏め、その効果を明らかにすることで、今後のサービス向上のために必要な改善点を検討する。

【方法】

2023年5月1日から2025年1月31までの実践および利用状況を分析した。相談者のプライバシーを守るために個人情報を匿名化して、収集したデータをもとに、相談内容、相談方法、対応期間、回答内容（利用評価）を分析した。筑波大学医の倫理委員会の承認を受け研究を行っている。

【結果】

オンライン個別相談は、開設から1年8か月間で25件の相談を受け、相談者は15名の養育者であった。相談方法はメッセージ（4件）、LINE（6件）、ZOOM（15件）であり、相談申込後、対応までの平均期間は16.6日（最短4日、最長34日）であった。相談内容は、子どもや家族の体調、メンタルヘルス、教育、社会福祉に関連し、難病を持つ子どもの養育者からは介護負担や仕事への影響についての相談であった。ほとんどの相談者が「非常に満足」または「満足」と評価し、システムの利便性や再利用意向も高いという評価だった。特にZOOM相談は、相談者と直接対話できるため、悩みを深く聴くことができ、より有効な支援が提供でき、満足度も高かった。一方、メッセージやLINEでの相談では、相談内容が400文字程度で伝わりづらく、解答が一般的になることがあり、満足度が低下する傾向にあった。

【考察】

オンライン個別相談は、従来の対面相談に比べ、時間や場所に制約のある相談者にとって利便性が高く、移動時間が不要で柔軟な対応が可能である。しかし、メッセージやLINEでの相談では、情報を簡潔にまとめる必要があり、相談者が悩みを十分に伝えきれない場合がある。ZOOMなどの対話型相談では、直接対話を通じて悩みを深く理解でき、効果的な支援が可能となる。また、地域ごとの制度やサービスに精通した支援の強化が求められ、受ける側のマンパワーの充実、例えば地域に精通しているサポーターの活用やスキルの向上により、地域密着型の支援が質の高いサービス提供に繋がると考える。